

- 特記なき限り
 1. 鉄骨材質 無印: SS400
 2. HTB: FBT
 3. A.BOLT: SS400
 4. 詳細寸法は意匠図による
 5. 支持地盤: 砂礫層、支持耐力: 100kN/m²
 6. 溶融亜鉛メッキとする

鉄骨部材リスト

符号	断面	備考
c1	H-125x125x6.5x9	BR-12x200x200 A.BOLT 2-M20 L=800 フック付ダブルナット締め
g1	H-125x125x6.5x9	
b1	H-125x125x6.5x9	GR-9 HTB 2-M16
b2	C-100x50x5x7.5	GR-9 HTB 2-M16
v1	1-M16 (JISスタンパックル付)	GR-9 HTB 1-M16

壁リスト

符号	壁厚 (t)	配筋		
		たて筋	よこ筋	開口補強筋
w30	300	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	4-D13

変更点②: ベースプレート詳細追加

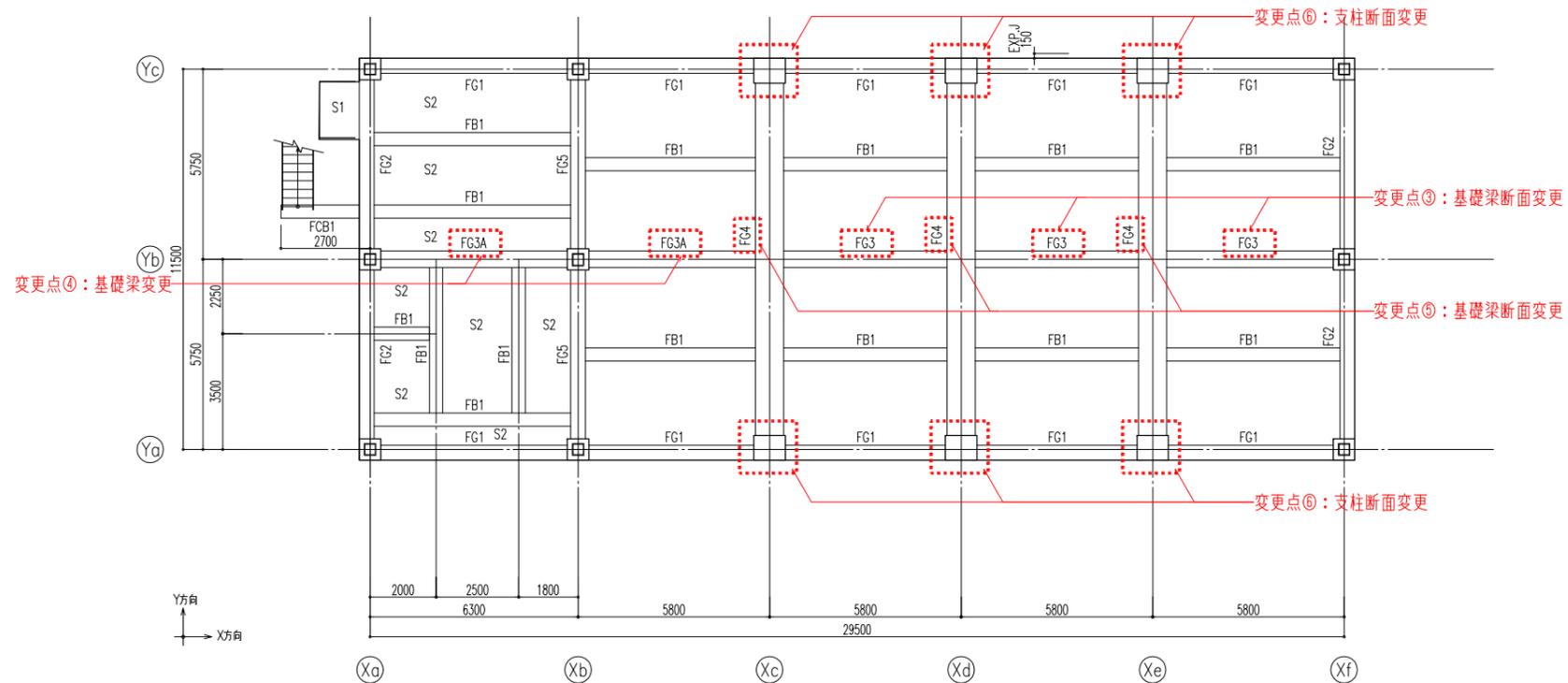
1階伏図 S=1/100

特記なき限り
1. スラブ符号は S1 とする。

特記なき限り、床梁レベルは下記による。

記号	床天端レベル	梁天端レベル
□	FL-20	FL-220

床レベルに差が生じる場合の梁レベルは、低い方の梁レベルとする。

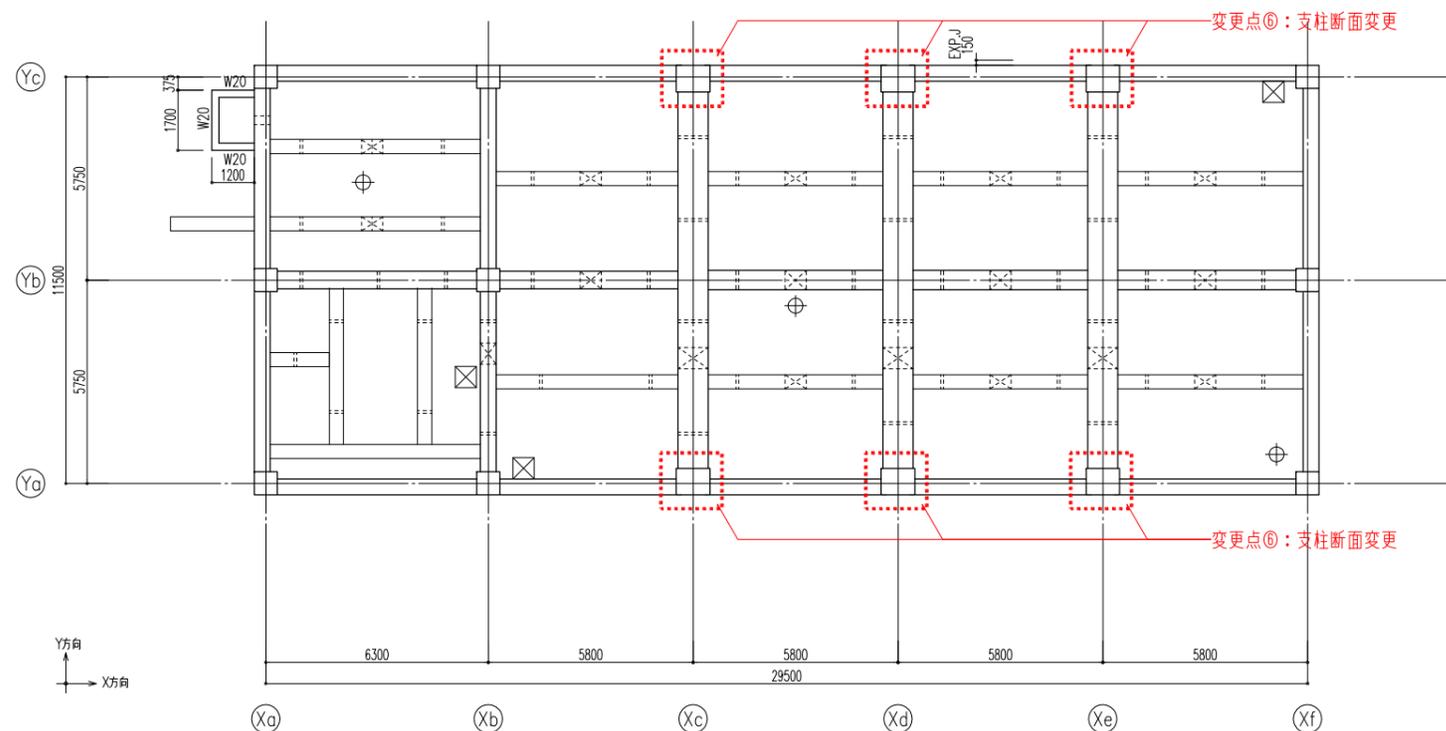


基礎伏図 S=1/100

- 特記なき限り
1. スラブ符号は FS1 とする。
 2. 基礎下地レベル=GL-1800
 3. ⊗印は釜場を示す。
 4. ⊕印は人通り孔を示す。
 5. ⊙印は平板試験位置を示す。
 6. □印は試験場所深さは既存GL-1800。

特記なき限り、耐圧スラブ天端レベルは下記による。

記号	耐圧スラブ天端レベル
□	1FL-1920



基礎梁リスト S=1/50								
符号	FG1	FG2	FG3	FG3A	FG4	FG5	FB1	FCB1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
b x D	450x2000	450x2000	500x2000	500x2000	850x2000	450x2000	400x2000	400x2000
上端筋	3-D25	3-D25	6-D25	6-D25	27-D25	4-D25	4-D22	4-D22
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	11-D25	12-D25	4-D25	4-D22	4-D22
スターループ					山-D13 @100			
備考								

共通事項

特記なき限り、下記による。

- スターループ □ -D13 @200
- 縦筋 10-D13
- 幅止め筋 D10 @1,000以内
- b x D表示及び地盤
- 打増し補強要領
基礎梁打増し補強要領 h>200のとき
基礎梁打増し補強要領 E>200のとき

(注) 1. スラブレベルと梁レベルに差のある場合、梁上又は梁下を打増す。

耐力スラブリスト					
符号	スラブ厚(t)	位置	短辺方向 (片持スラブは片持方向を示す)	長辺方向	備考
FS1	300	上端筋 下端筋	D16 @150 D16 @150	D16 @150 D16 @150	
共通事項	土嚢コンクリート 1/30 				

壁リスト					
符号	壁厚(t)	配筋		備考	共通事項
		たて筋	よこ筋		
W20	200	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル		特記なき限り下記による 1. 幅止め筋 D10 @1,000以内 2. たて筋はよこ筋の外側に配筋する。

スラブリスト					
符号	スラブ厚(t)	位置	短辺方向 (片持スラブは片持方向を示す)	長辺方向	備考
S1	150	上端筋 下端筋	D10 D13 @200 D10 D13 @200	D10 @200 D10 @200	
S2	150	上端筋 下端筋	D13 @150 D13 @150	D10 D13 @150 D10 D13 @150	
S3	150	上端筋 下端筋	D13 @100 D13 @100	D13 @100 D13 @100	
CS1	150	上端筋 下端筋	D10 D13 @200 D10 D13 @200	D10 @150 D10 @150	

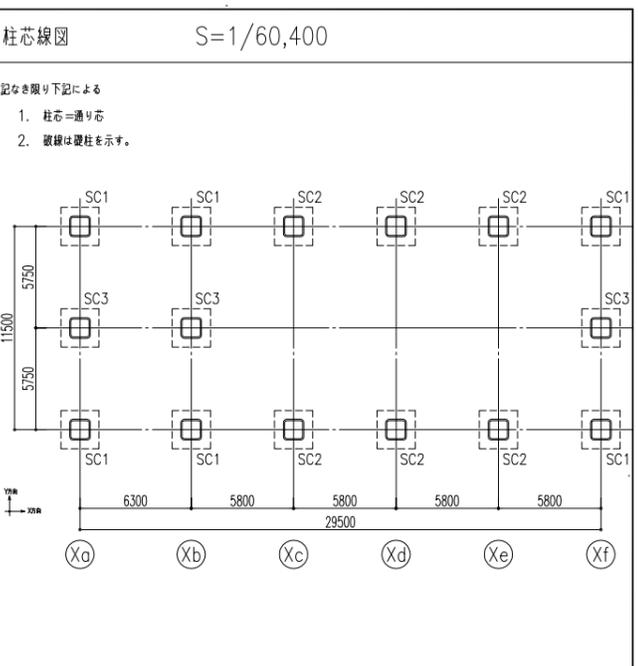
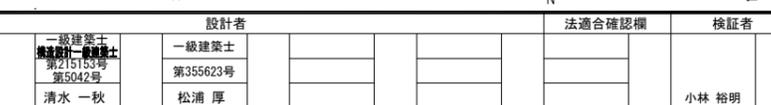
鉄骨柱断面リスト S=1/30			
符号	SC1	SC2	SC3
2FL	□-350x350x22	□-350x350x22	□-350x350x22
1FL	□-350x350x22	□-350x350x22	□-350x350x22
柱脚			
ハイベース型式	NEO EB350-8-30	NEO EB350-8-30	NEO EB350-8-30
B x D	750x750	750x750	750x750
主筋	16-D22(SD345)	16-D22(SD345)	16-D22(SD345)
フープ	D13 @100(SD295A)	D13 @100(SD295A)	D13 @100(SD295A)
フックの長さ(mm)	490	490	490
備考	スラブ内埋め込み深さ150mm以上	スラブ内埋め込み深さ150mm以上	スラブ内埋め込み深さ150mm以上

鉄骨大梁断面リスト					
符号	SG1	SG2	SG3	SG3A	SG4
RFL	[B]H-488x300x11x18	[B]H-488x300x11x18	[B]H-488x300x11x18	[B]H-488x300x11x18	[B]H-700x300x14x32
2FL	[B]H-588x300x12x20	[B]H-588x300x12x20	[B]H-588x300x12x20	[B]H-390x300x10x16	[B]H-700x300x14x28
符号	SG5	CG1			
RFL	[B]H-488x300x11x18	[B]H-340x250x 9x14			
2FL	[B]H-390x300x10x16	[B]H-340x250x 9x14			

鉄骨部材断面リスト・継手表												
部材断面寸法(中央部材)	フランジ継手						ウェブ継手					
	H.T.BOLT	S 配-1	S 配-2	S 配-L	H.T.BOLT	N-M	E1	P1	S 配-3			
[B]H-340x250x 9x14	8-M20	[B]2R-12x250	[B]2R-12x100	530	6-M20	2	3	110	60	[B]2R-9x200x290		
[B]H-390x300x 10x16	8-M20	[B]2R-12x300	[B]2R-12x110	440	4-M20	1	4	105	60	[B]2R-9x260x170		
[B]H-390x300x 10x16	10-M20	[B]2R-12x300	[B]2R-12x110	530	6-M20	2	3	105	90	[B]2R-9x260x290		
[B]H-488x300x 11x18	8-M20	[B]2R-12x300	[B]2R-12x110	440	8-M20	2	4	105	90	[B]2R-12x350x290		
[B]H-588x300x 12x20	10-M20	[B]2R-12x300	[B]2R-16x110	530	8-M20	2	4	114	120	[B]2R-9x440x290		
[B]H-700x300x 14x28	14-M20	[B]2R-19x300	[B]2R-22x110	710	9-M20	1	9	110	60	[B]2R-9x560x170		
[B]H-700x300x 14x32	14-M20	[B]2R-22x300	[B]2R-22x110	710	12-M20	2	6	125	60	[B]2R-16x380x290		

フランジ接合部						ウェブ接合部	
Bf	G1	G2	E2	備考			
150	90	-	30				
175	105	-	35				
200	120	-	40				

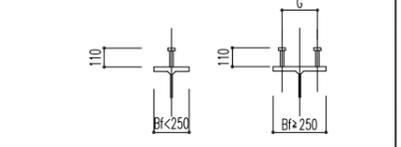
鉄骨小梁ピン接合タイプ、その他部材リスト								
符号	部材断面寸法	継手タイプ	ウェブ継手				備考	
			H.T.BOLT	N-M	P1	R-A	2S R-B	
SB25	H-250x125x 6x 9	A	2-M20	1	2	60	R-6	-
SB34M	H-340x250x 9x14	A	3-M22	1	3	60	R-12	-
SB39M	H-390x300x10x16	A	5-M22	1	5	60	R-12	剛接合(2SG3A)
RSG3A	H-488x300x11x18	A	6-M22	1	6	60	R-12	-
HB1	H-294x200x 8x12	B	3-M20	1	3	60	R-12	横使い
SP1	H-125x 60x 6x 8	A	2-M16	2	1	60	R-6	-
SP2	H-250x125x 6x 9	A	2-M20	1	2	60	R-6	柱脚(下部参照)
SP3	CT-175x175x 7x11	A	2-M16	2	1	60	GR-9	@1200



- 共通事項
- 継手に於ける基本事項
1. 継手部のボルト本数、スプラインプレートは、中央断面及び、小さい方の母材断面により決定し、継手表より選択する。
2. 継手表に示すボルト本数は、継手部の片割について示す。
3. 継手部のクリアランスは、10mmとする。
4. 継手部に於いて母材の板厚差が、1mmを超える場合は、フィラープレートにて板厚を調整する。(フィラープレートの材質は、SS400とする)
5. 継手表に明記なき場合は、詳細図による。
6. 継手表と詳細図が異なる場合は、詳細図を優先する。
7. 鉄骨材質 無印:SS400 [B]印:SN400B [C]印:SN490B
8. スプラインプレートの材質は、母材材質と同等とする。
9. 高力ボルトは、S10Tとする。
10. 外部階段の部材は溶融亜鉛メッキとする。
 - 高力ボルトピッチの仕様

呼径	ピッチ(P)	はしあき(e)	孔径	種類
M22	60	40	24.0	トルシアタイプ S10T
M20	60	40	22.0	
M16	60	40	18.0	

- 預付スタッドは、下記の通りとする。(鉄骨大梁、小梁共)
コンクリートスラブの取り付く鉄骨梁フランジ面に預付スタッドを溶接する。
但し、フランジ継手版上には不要とし、梁上のスタッド本数が減らないようピッチを調整する。

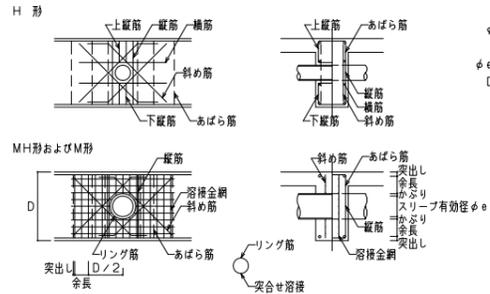


フランジ幅(B)	G	預付スタッド (JIS B 1198規格品)
Bf ≤ 150	-	1-19φ @300
150 < Bf < 250	-	1-19φ @200
250 ≤ Bf < 300	100	2-19φ @200
350	150	2-19φ @200
400	200	2-19φ @200

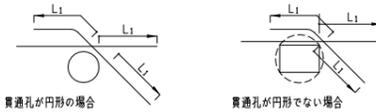
鉄筋コンクリート造梁の梁貫通孔補強要領

1 梁貫通孔の補強（一般事項）

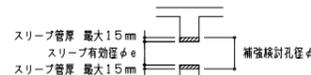
梁貫通孔の補強は下記による。
(a) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。



- (b) 孔の径は、梁せい1/3以下とし、補強検討孔径 ϕ とする。孔が円形でない場合はこの外径とする。
- (c) 孔の設置位置は、2-3 設置範囲 による。
- (d) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の3倍以上とし、上下に配置してはならない。
- (e) 人通り孔は、スパン中央部 ($L_0/2$) 範囲内に配置することを原則とする。
- (f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (g) 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。



- (h) 溶接金網の余長は、1格以上とし、突出しは10mm以上とする。
 - (i) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13 ϕ のリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
 - (j) 溶接金網の割付け地点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
 - (k) スリープ有効径 ϕ_e は管内径であり、補強検討孔径 ϕ とは異なる。
- 梁貫通補強筋に用いる孔径 ϕ はスリープ有効径 ϕ_e ×スリープ管厚×2とする。



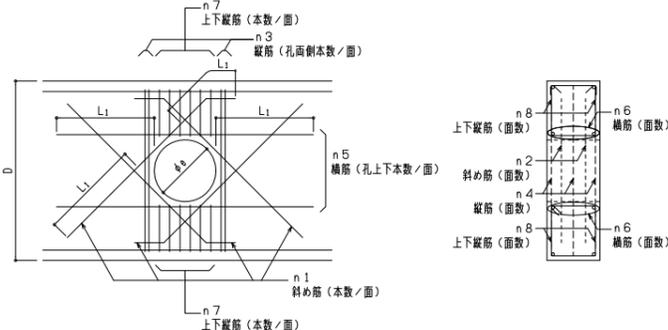
- (l) 大臣認定を取得した梁貫通補強材を用いる場合は、以下の設計条件で行うこと。
・基礎梁は塑性ヒンジが発生していない部分とする。
・既製品、検討内容等に関しては、設計者・監理者の承認を得ること。
- (m) 基礎梁に塑性ヒンジが発生する場合は、別途図示すること。

2 補強要領

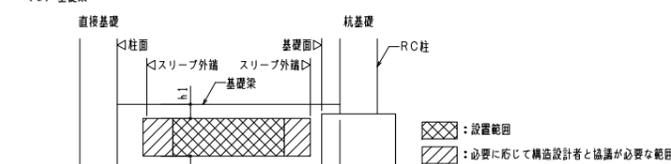
2-1 補強の形式と種類

補強筋種別	斜め筋 (n1-n2-鉄筋径)	縦筋 (n3-n4-鉄筋径)	横筋 (n5-n6-鉄筋径)	上下縦筋 (n7-n8-鉄筋径)
H1	2-2-D13	なし	なし	なし
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13
H5	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13
H8	4-2-D25	4-2-D22	2-4-D16	3-2-D13
H9	4-4-D25	4-4-D22	2-4-D16	3-2-D13

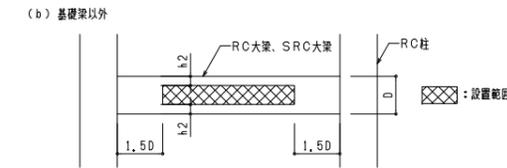
2-2 配筋種別



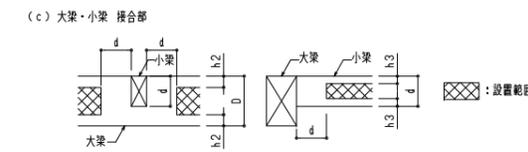
2-3 設置範囲



- (注) 1. 基礎梁は塑性ヒンジが発生していない部分とする。
- 2. $h1 \geq 200$ mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法

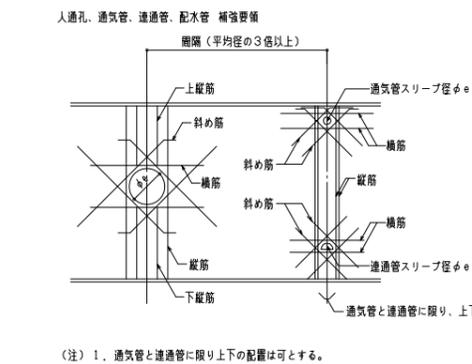


- (注) 1. $h2 \geq 200$ mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法



- (注) 1. $h2 \geq 200$ mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法
- 2. $h3 \geq 200$ mm かつ梁主筋のかぶり厚さを確保した寸法

2-4



- (注) 1. 通気管と排水管に限り上下の配置は可とする。

■RC補強リスト *数量は、電気設備・機械設備・空調設備・給排水衛生設備の各工事因による。

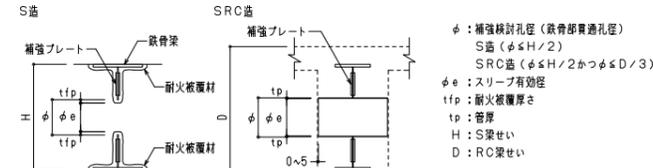
階	梁符号	B (mm)	D (mm)	スリープ有効径 ϕ_e (mm)	補強筋種別
1F	FG1	450	2000	150	H2
1F	FG1	450	2000	200	H2
1F	FG2	450	2000	250	H2
1F	FG3	500	2000	200	H4
1F	FG3	500	2000	600	H4
1F	FG3A	500	2000	250	H8
1F	FG3A	500	2000	600	H9
1F	FG4	850	2000	200	H8
1F	FG4	850	2000	600	H9
1F	FG5	450	2000	200	H4
1F	FG5	450	2000	600	H7
1F	FB1	400	2000	200	H2
1F	FB1	400	2000	600	H2

変更点①：基礎梁の開口補強変更

鉄骨造梁の梁貫通孔補強要領（鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨部共通）

1 梁貫通孔の補強（一般事項）

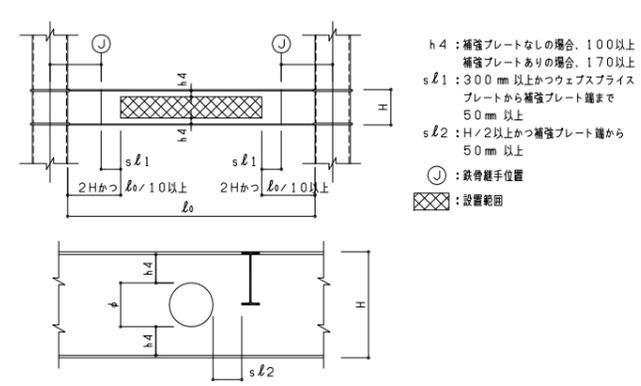
梁貫通孔の補強は下記による。
(a) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。



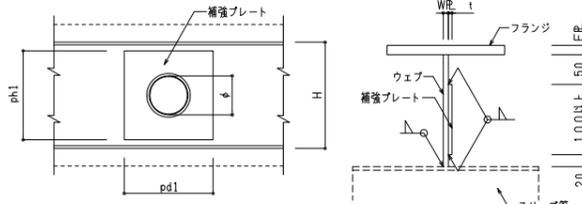
- (b) スリープ最大径は、S造 鉄骨梁せいH/2以下、SRC造 鉄骨梁せいH/2以下およびRC梁せいD/3以下のうち小さい値とする。
- (c) 孔の設置位置は、2-1 設置範囲 による。
- (d) 孔中心間隔は、S造は平均 ϕ の2倍以上、SRC造は平均 ϕ の3倍以上とする。
- (e) 施工者は、スリープ径 ϕ とスリープ有効径 ϕ_e との関係を確認し、質疑等が生じた場合は監理者と協議し、適切な径にしなければならない。
- (f) t_{fp} は、建築工事特記仕様書(2)に示された材料により決定する。
- (g) 大臣認定を取得した梁貫通補強材を用いる場合は、設計者・監理者の承認を得ること。

2 補強要領（S・SRC造共）

2-1 設置範囲



2-2 補強要領



- (注) 1. $pd1$ は、 $pd1$ または、 $3 \times \phi$ の小さい方とする。
- 2. $pd1$ は、図示とする。
- 3. 補強プレート厚さ $t \geq 16$ mm となる場合は、片面補強は行わず両面補強とする。

■S・SRC補強リスト *数量は、電気設備・機械設備・空調設備・給排水衛生設備の各工事因による。

梁符号	WR (mm)	FR (mm)	スリープ有効径 ϕ_e (mm)	補強プレート (mm)
2SG4	14	28	150	R-12
2SG4	14	28	350	R-30 (両面補強)

参考

1 スリープ径

(a) スリープ管の外径および管厚 (RC造)

ボイド		VP管			
呼径 (mm)	管厚 (mm)	呼径 (mm)	外径 (mm)	管厚 (mm)	近内径 (mm)
50	2.0	13	18	2.2	13
75	2.5	16	22	2.7	16
90	3.0	20	26	2.7	20
100	3.0	25	32	3.1	25
125	3.0	30	38	3.1	31
150	3.5	40	48	3.6	40
175	3.5	50	60	4.1	51
200	4.0	65	76	4.1	67
250	4.5	75	89	5.5	77
300	5.5	100	114	6.6	100
350	6.0	125	140	7.0	125
400	6.5	150	165	8.9	146
450	7.0	200	216	9.2	196
500	7.5	250	267	9.2	247

VU管				SU管			
呼径 (mm)	外径 (mm)	管厚 (mm)	近内径 (mm)	呼径 (mm)	外径 (mm)	管厚 (mm)	近内径 (mm)
40	48	1.8	44	25x28	28	1.5	25
50	60	1.8	56	32x35	35	1.5	32
65	76	2.2	71	50x54	54	2.0	50
75	89	2.7	83	63x68	68	2.5	63
100	114	3.1	107	75x80	80	2.5	75
125	140	4.1	131	100x106	106	2.5	100
150	165	5.1	154	125x134	134	3.0	125
200	216	6.5	202	LP150	156	3.0	150
250	267	7.8	250	157x165	165	4.5	157
300	318	9.2	298	206x216	216	5.0	206
350	370	10.5	347				
400	420	11.8	394				
450	470	13.2	441				
500	520	14.6	488				

(b) スリープ径および鋼管 (S・SRC造)

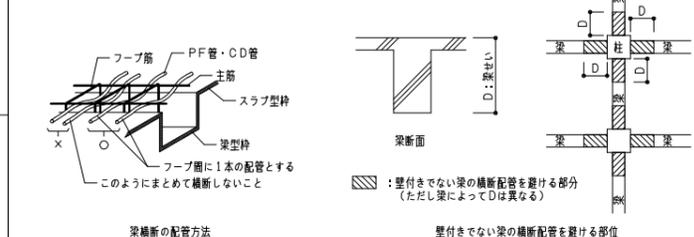
呼径 (mm)	鋼管 (mm)	鋼管有効径 (mm)
100	ϕ -114.3x3.2	107.9
130	ϕ -139.8x3.2	133.4
150	ϕ -165.2x3.8	157.6
200	ϕ -216.3x4.5	207.3
250	ϕ -267.4x6.0	255.4
300	ϕ -318.5x6.0	306.5
350	ϕ -369.6x6.4	342.8
400	ϕ -420.6x6.4	393.6
450	ϕ -471.7x6.4	444.4

(注) 1. 鋼管材質はSTK400とする。

2 PF管及びCD管の配管基準図

2-1 梁横断の配管方法

- (a) ダブル配筋の壁・スラブの配管は、ボックス近辺を除きダブル配筋の間に挿入する。
- (b) 床配筋及び壁配筋に平行の埋設配管は、壁・ボックス近辺を除き、平行する配筋と30mm以上の間隔をあけて布設する。
- (c) 配管が集中する壁の上下部、EPS等において配管相互間隔(30mm以上)が不足するおそれがある場合は、別の場所ではボックス等を使用して配管処理を行い、他の配管方法にて壁及びEPSに配管する。
- (d) 梁に平行の埋設配管は、梁面より100mm以上の間隔をあけて布設する。また、梁材中の軸方向の配管は出来るだけ避けること。
- (e) 壁付でない梁の横断配管は次の事項に留意して布設する。
・多数の配管をまとめて横断しないようにする。(下図参照)
・柱から梁せい以内の部分の横断は避ける。(下図参照)



2-2 コンクリート埋設配管の配管支持

- (a) コンクリート埋設配管の結束間隔は下図による。
- (b) 曲がり部分等ではコンクリート打設時の移動や管の浮き上がりを防止するため、0.5m以下の間隔とする。
- (c) 配管相互の間隔は30mm以上とする。
- (d) 埋設配管の支持結束には、バンド線又は専用支持金具を使用する。
- (e) 専用支持金具の例を下図に示す。

